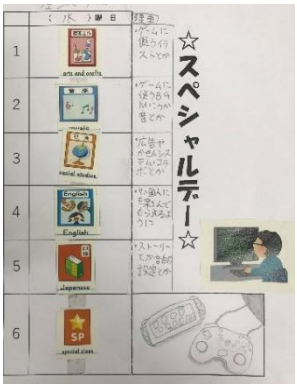
全国小学校英語教育実践研究会 令和２年度　「わたしの英語教育実践」	５年　外国語科（７月） Junior Sunshine 5 Lesson 3　　What do you have on Mondays? 第５時／８時間扱
④　学習評価の改善と指導の充実	大牟田市立高取小学校　５年担任　立花　真子

子供の姿から授業を改善　～無理なく楽しく英語に慣れ親しませる授業作り～

自分の将来の夢をかなえるための時間割作りを単元のゴールとして以下の単元計画を立て、授業を行いました。“What do you have on Mondays？”という表現は、本単元で初出であり、リズムも複雑で、子供たちに慣れ親しませるのは、教師が思っている以上に難しかったので、子供たちの活動の様子や振り返りカードの内容をもとに、単元構成を修正しながら行った授業実践を報告します。

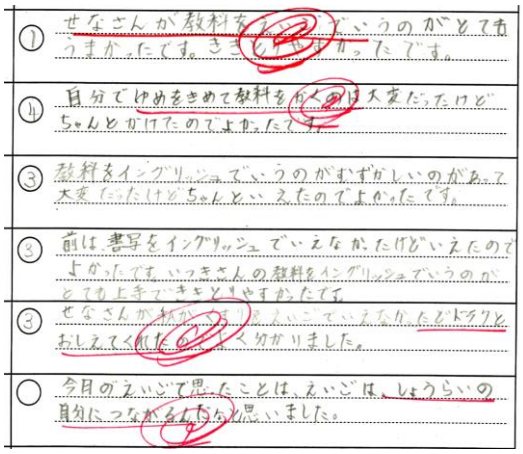
	めあて
1	曜日や教科の言い方を知ろう。
2	教科名当てクイズをしよう。
3	クラスの好きな教科ランキングを作ろう
4	夢を叶える時間割を考えよう。
5	夢を叶える時間割を完成させよう。
6	特別授業とその理由を考え、伝える練習をしよう。
7	夢を叶える時間割クイズ大会をしよう。（前半）
8	夢を叶える時間割クイズ大会をしよう。（後半）



【夢をかなえる時間割カード】

【クイズ大会の様子】

第５時では、お店屋さん形式で各教科のカードをやりとりして自分の考えた時間割表に貼って完成させる活動をメインで行いました。そこでは、“What do you have on　（曜日）？”“I have　（教科名）on（曜日）”という表現でのやりとりが必要でしたが、この時間に初めて出会った表現でした。前時までは“What subject do you like?”という表現を発話しており、そこまではチャンツをすることでスムーズに慣れ親しんでいたので、第５時も前時と同じようにチャンツを利用して慣れ親しませる予定でした。しかし、この表現の難しさ、リズムの違いなどから、子供たちはこの表現をすぐには慣れ親しむことができませんでした。そこで、第６時のウォーミングアップの時間を長めにとって自作のチャンツを繰り返し行ったり、慣れ親しむために“Get the same ゲーム”を取り入れたりして、繰り返し、変化をつけながら言う時間を入れました。第７、８時でも、クイズ大会をグループ対抗とし、前半ではクラスの半分の班が出題のみを、もう半分は回答のみを担当し、繰り返し同じ表現を発話できるように工夫しました。


① せなさんが教科をえいごでいうのがとてもうまかったです。きき[illegible]かったです。
④ 自分でゆめをきめて教科をかくのは大変だったけどちゃんとかけたのでよかったです。
③ 教科をイングリッシュでいうのがむずかしいのがあって大変だったけどちゃんといえたのでよかったです。
③ 前は書写をイングリッシュでいえなかったけどいえたのでよかったです。いっきさんの教科をイングリッシュでいうのがとても上手でききとりやすかったです。
③ せなさんが[illegible]えいごでいえなかったどドラクとおしえてくれた[illegible]く分かりました。
○ 今日のえいごで思ったことは、えいごは、しょうらいの自分につながるんだなと思いました。

その結果、子供たちの振り返りカードには、授業を重ねるごとに、教科名や表現が言えるようになったとの記述が多くありました。このように、はじめに立てた計画があったとしても、子供の様子から単元構成を修正し、よりよく改善しながら学習を進めていくことが大切だと考えます。子供の目線に立って、学級の子供たちの実態や興味・関心などをしっかりと見極めながら授業を工夫することでより楽しく、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う外国語科の授業が展開できるのではないかと考えます。

指導助言・アドバイスコーナー

授業とは、やってみないとわからないものです。十分に教材研究を行い、豊かな子供理解に基づいて単元計画を立てたとしても、実際に授業をやってみると、教師の思いや計画と子供の実態にずれが起きることがしばしばあります。そのときに、臨機応変に計画を立て直せるかどうかも、教師の指導力の一つです。本実践のように、計画内の活動やかける時間を変更したり、順を入れ替えたり、あるいは思い切って目標を変更せざる得ない場合もあります。そのようなことができるためには、立花教諭のように、授業での子供の様子の観察と振り返りの分析が欠かせませんね。

（文科省　視学官　直山　木綿子）